

令和8年7月9日(木)付南日本新聞に「さつまファームレディ倶楽部花育部会」との現地交流会についての記事が掲載されましたので、紹介します。

薩摩中央高生 花き農家と交流



生産管理や直売、経営学ぶ

さつま町と薩摩川内市の女性農業経営士で組織する「さつまファームレディ倶楽部」と、薩摩中央高校生との交流会が3日、同町内の花き生産農家であった。生徒らは生産現場の一端に触れ、刺激を受けた様子だった。

生徒に花き農家の魅力を知ってもらい、将来の進路

1軒目に、シクラメンを栽培する新規就農1年目の堂脇敏彦さん(36)と町時吉Ⅱのハウスを訪れ、シクラメンの管理の仕方や直売について話を聞いた。

シクラメンの管理などについて堂脇敏彦さん(右)の説明を聞く生徒ら

Ⅱさつま町時吉

た。

堂脇さんは今後は野菜やコメ栽培の経験も生かし、いくつかの品目を組み合わせ、経営したいと説明。「選んだ仕事の現場で、どれだけ真剣に取り組めるか努力次第。人との出会いを大切にしたい」と生徒にエールを送った。吉満雄生さんは「行動力はすごいと思った」と話した。

2軒目は、ブライダル用葉物類やスギ苗などを手掛ける南原武博さん(60)と町柏原Ⅱの農園を訪問。南原さんは、経営安定のために経済の仕組みをしっかり考えることが必要だと強調。「農業は、やり方によつてはやりがいがある仕事。自分がどこに価値観を見いだすがとても大事だと思つ」と話した。

(中島裕一郎)